



保管料

開始条件: レベル5のウォーターマスター

目的: 宝箱の略取、かつ敵の全滅

序幕:

グルームヘイヴンの街路を駆け抜け、息を切らしてあえいだ。肺のゆるす限りの速度で、元波止場に向けてひた走った。そこには余剰品がいくつか保管してあった。《焦げタマネギ》亭であの雑談を聞くまで、すべては順調だったのだが。とある強盗団が、かの保管場所を襲撃する計画を立てていたのだという。

俺の目が黒いうちは、そんなことはさせない! とにかく倉庫まで到着した。辺りは静かで平穏に見えたので、ほっと安心する。しかし「実はすでに盗まれた後ではないか」と考え直し、再び焦った。

急いで正面の扉から入った。品の隠し場所は一番奥で、しかも夜には対侵入者用の罠が仕掛けられている。悪態をついてはみたが、やはり自分のものは確認せねばならない。

特別ルール:

宝箱を略取したら ① を読んでください。



今度こそ安心感に包まれた。筆筒の引き出しを開き、中にまだすべてがあることを確認できたからだ。とその時、ガラスが割れる音が響いた。一瞬にして緊張が走る。見上げると、壁をよじ登った盗賊どもが倉庫の窓から侵入してくる。

「野郎ども、お宝はみんな奪い取れ!!」奥にいるデカブツが叫んだ。「目撃者はもちろん殺せ!!」

特別ルール:

通常モンスターの盗賊の衛兵を1体、ヘクス ① に配置します。上級モンスターの盗賊の衛兵を1体、ヘクス ② に配置します。通常モンスターの盗賊の射手を ③ の各ヘクスに1体ずつ (計2体) 配置します。通常モンスターの恐狼を ④ の各ヘクスに1体ずつ (計2体) 配置します。

終幕:

自分の管理下にある武器を次々鞘へ収めながら、思案しつつ周囲を見回す。この場所が期待したほど安全でなかったのは明白だ。以前「持ち歩くには多すぎる」と決断した武器だったが、今回の遭遇で、これら余剰品を生かすための新しい方法を見つけたようだ。すべて装備できる新たなベルトの製作に取りかかった。そして腰に巻きつける。これで準備万端だ。

報酬:

アイテム 141 番〈万能ベルト〉

使用する
地形タイル:

B1a
I1a
I2b

